

(証券コード 7702)

株式会社 ジェイ・エム・エス

2023年3月期 第1四半期 連結決算の概要

2022年8月5日

連結：増収減益

売上高 14,281百万円(+483百万円)
営業利益 △104百万円(△541百万円)

売上： 国内は透析及び外科治療領域の伸長により増収、海外は新型コロナの影響による需要停滞が一部製品で継続するも、円安による円貨換算額の増加も加わり増収

利益： 海外主力の血液バッグやA V F 針（血液透析用針）の増加による増収効果はあるものの、原材料費や海上運賃、電力費の世界的な高騰の影響を受けて減益、営業損失

システム別

透 析： 国内で血液透析装置が増加したほか、北米向けをはじめA V F 針が増加

外科治療： 人工心肺用回路が増加したほか、急性血液浄化回路は国内に加えて中国市場で増加

地域別

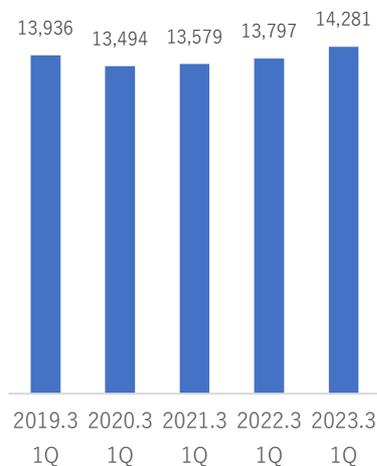
日 本： 半導体等の調達難により一部製品の生産調整を行ったものの、急性血液浄化事業に係る販売や、血液透析装置の販売が増加

アジア： 成分献血用回路は需要停滞が継続したものの、新型コロナの影響から回復の兆しが見られる血液バッグのほか、A V F 針や栄養セットが増加

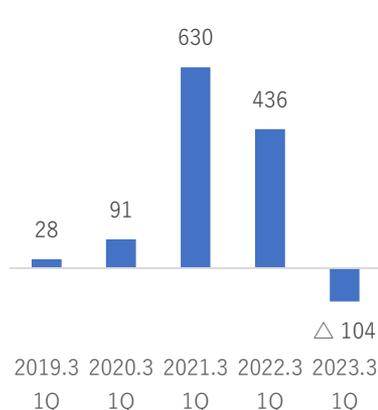
(単位：百万円)

	2022年 3月期 1Q	2023年 3月期 1Q	増減額	増減率
売上高	13,797	14,281	483	3.5%
営業利益	436	△104	△ 541	—
経常利益	478	△ 78	△ 556	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	365	△ 36	△ 402	—

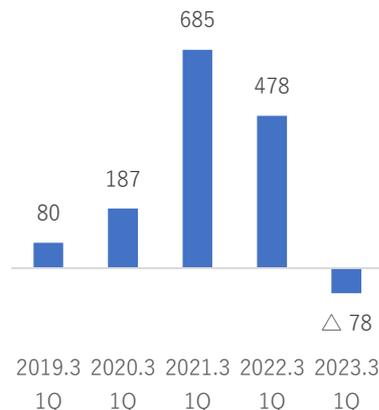
売上高



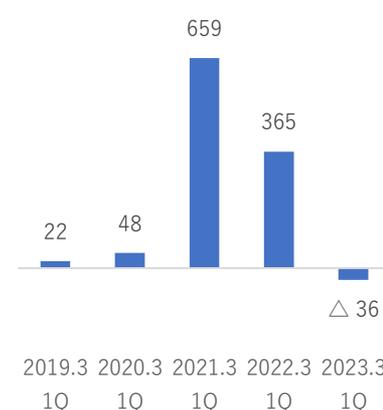
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する
四半期純利益



セグメント業績（拠点別、経常利益ベース）

- 売上：** ドイツやアメリカ（その他）でA V F 針が増加し海外売上を牽引、シンガポールは新型コロナウイルスの影響から回復の兆しが見られる血液バッグや輸血セットが増加、フィリピンは日本向けの販売において為替が不利に作用し減収
- 利益：** 原材料費や海上運賃、電力費の世界的な高騰影響を各拠点で受け減益、日本は販売活動の段階的な再開に伴う販売費の増加や、受取配当金の減少もあり大きく減益

（単位：百万円）

		2022年 3月期 1Q	2023年 3月期 1Q	増減額	増減率
日本	売上高	9,990	10,077	86	0.9%
	利益	534	△ 175	△ 710	—
シンガポール※	売上高	4,164	4,577	413	9.9%
	利益	34	57	22	64.8%
中国	売上高	848	940	91	10.8%
	利益	42	38	△ 4	△9.4%
フィリピン	売上高	829	773	△ 55	△6.7%
	利益	126	59	△ 66	△52.8%
ドイツ	売上高	747	879	131	17.7%
	利益	32	37	5	16.9%
その他※	売上高	1,034	1,249	214	20.7%
	利益	36	△ 18	△ 54	—

※シンガポールは、生産体制を相互に補完し一体とした事業活動を行うインドネシアの現地法人を含んでいます。
 ※その他は、国内子会社及びアメリカ、韓国、タイの現地法人の事業活動を含んでいます。

(単位：百万円)

輸液・栄養領域



薬剤調製・投与クローズドシステムが引き続き増加、新型コロナウイルスの感染再拡大の影響から消耗品の需要回復が鈍化し微減



売上高

透析領域



国内で血液透析装置が増加したほか、北米向けをはじめA V F針が増加



売上高

外科治療領域



人工心肺用回路が増加したほか、急性血液浄化回路は国内に加えて中国市場で増加



売上高

血液・細胞領域



海外需要の停滞から回復の兆しが見られる血液バッグの増加により微増

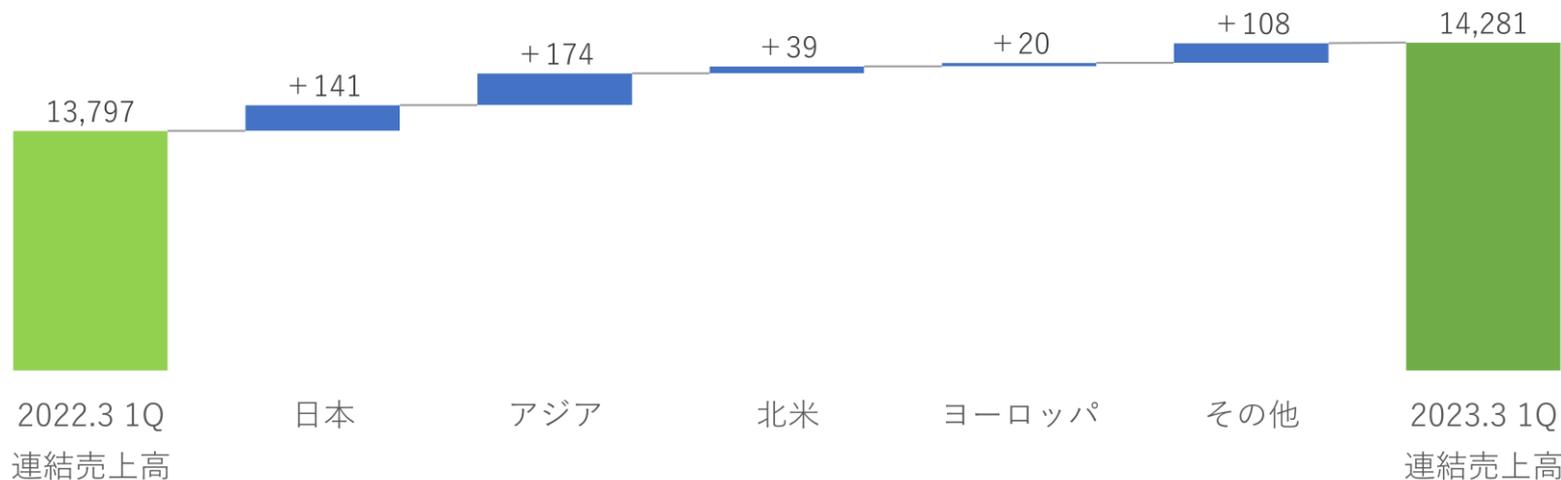


売上高

新型コロナの影響から回復の兆し、日本は血液透析装置や急性血液浄化関連が増加、アジアは血液バッグのほか A V F 針や栄養セットが増加、その他ではエジプト向け血液バッグなどが増加

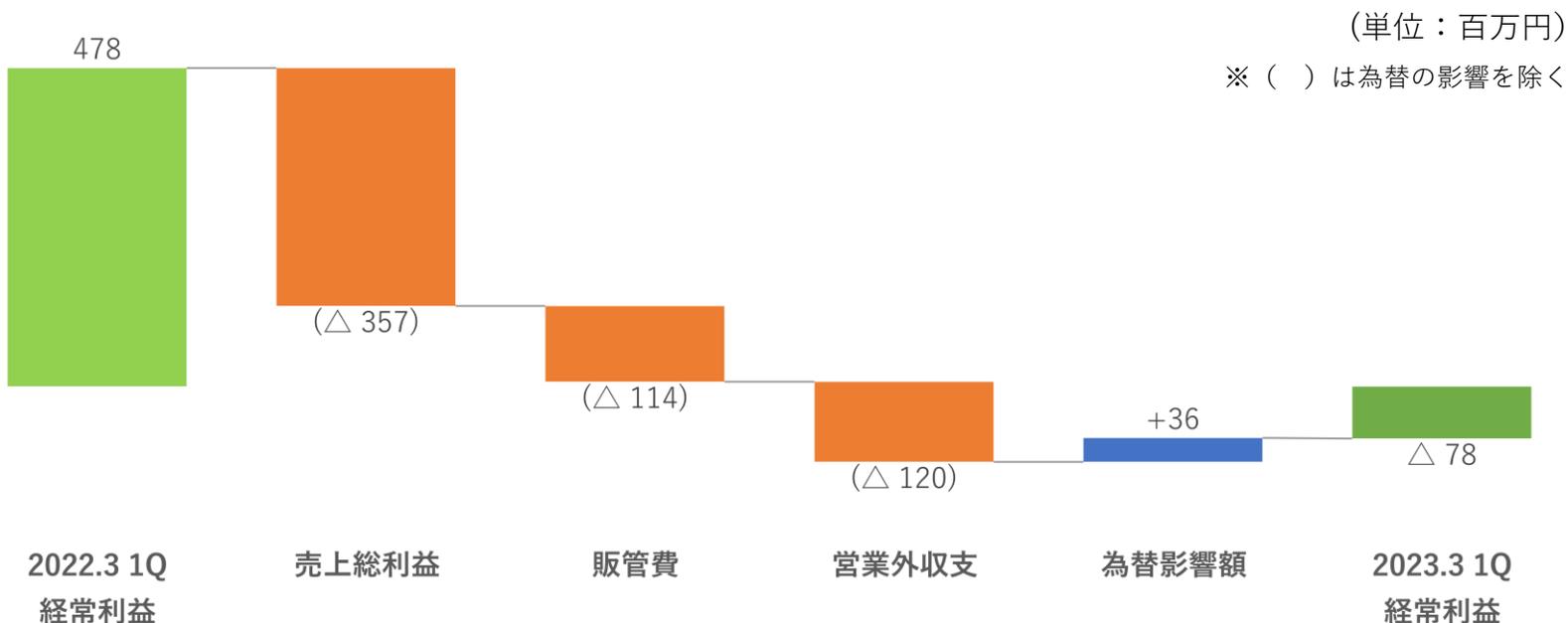
(単位：百万円)

	2022年 3月期 1Q	2023年 3月期 1Q	増減額	増減率	売上高 構成比
日本	9,032	9,173	141	1.6%	64.2%
アジア	1,852	2,026	174	9.4%	14.2%
北米	1,485	1,525	39	2.7%	10.7%
ヨーロッパ	1,285	1,305	20	1.6%	9.1%
その他	142	250	108	76.3%	1.8%



経常利益増減要因

売上総利益：原材料費や海上運賃、電力費の世界的な高騰による原価率上昇により減少
 販管費：医療施設への訪問規制緩和に伴う活動費が増加



為替レート (期中平均)

	米ドル	ユーロ	シンガポールドル
2022年 3月期 1Q	109.49 円	127.69 円	82.16 円
2023年 3月期 1Q	129.57 円	130.39 円	94.09 円

業績予想については、2022年5月12日公表時から変更しておりません

(単位：百万円)

	2022年 3月期実績	2023年 3月期予想	対前期 増減率
売上高	58,169	60,000	3.1%
営業利益	980	1,200	22.4%
経常利益	1,126	1,200	6.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	826	900	8.9%

※業績予想にあたっての前提として、為替レートを、1米ドル=120円、1ユーロ=132円、1シンガポールドル=88円としております。

- 売上：** 国内外ともに需要は回復傾向にあり、着実な需要の取込みにより引き続き増収を見込む
半導体等の調達難による装置の供給リスクは、協力会社と連携して最小化に努める
- 利益：** 原価低減を更に推進し、原材料費や電力費など物価高騰の影響を吸収する
合わせて販売価格や海上運賃負担など取引条件の見直しを図る

「JMS舌圧測定器」の欧州での認証取得、販売開始
2022年4月



人工心肺用温度コントロールユニット
「冷温水槽HC-1」の販売開始
2022年5月



テレメトリー式心電送信機「myBeat ホームECG」
事業の譲受けに関するお知らせ
2022年6月





人と医療のあいだに…

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。